三綱行實圖

孝子ノ部中下

貳

特別
ロ9
817
2

817
2

宮城縣立圖書館

三綱行實圖面

孝子中

元覺驚父
王裒廢詩
王祥剖氷
王延躍魚
黔婁嘗糞
吉翊代父

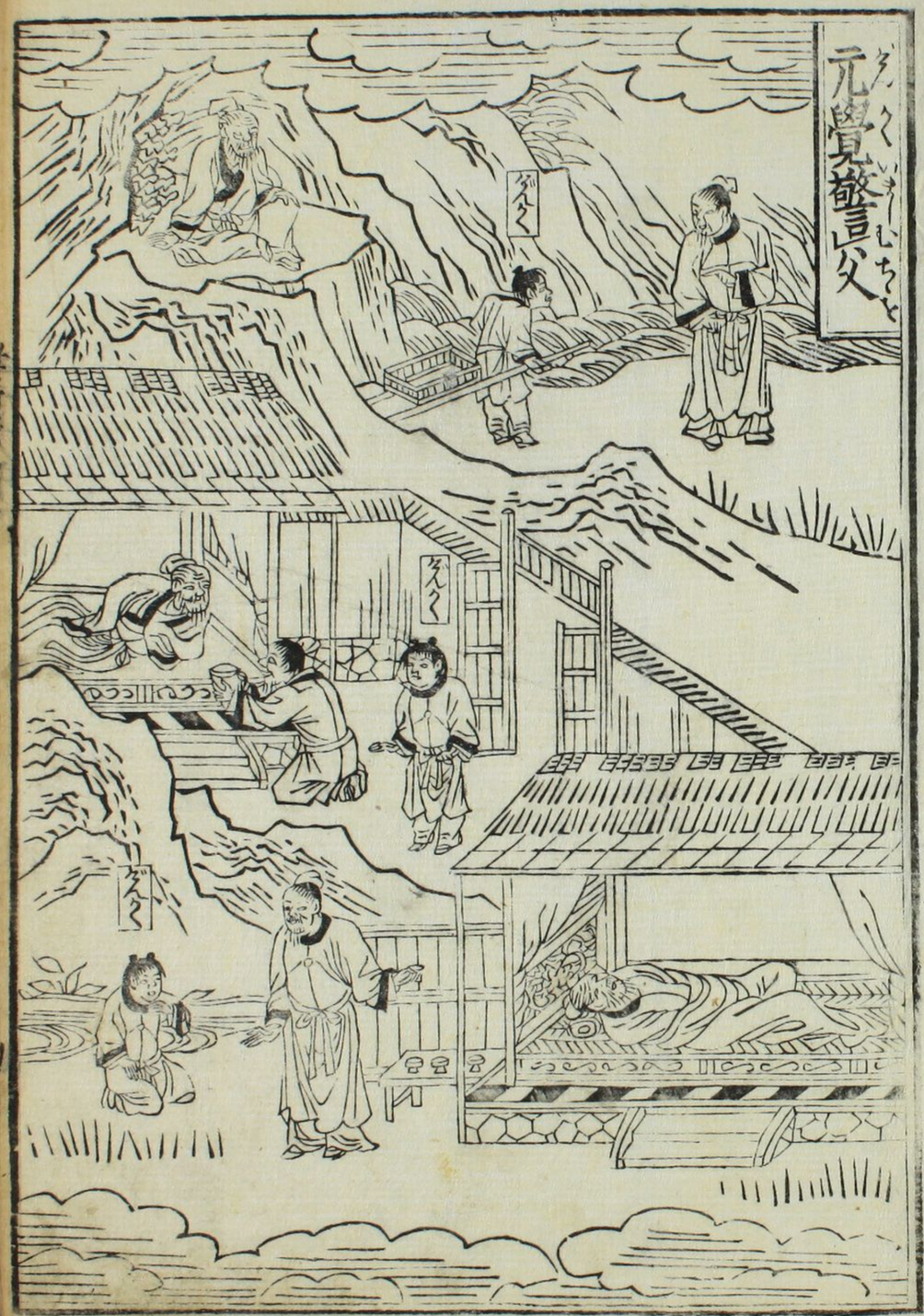
孟熙得金
孟宗泣竹
許孜埋獸
潘綜救父
叔謙訪藥
不宮捧屍

三經行實圖

元覺警父

元覺ゝのゝハ元悟とぞ申す元悟昌
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とぶらひ人こちうつてかぶりて興行祖父母
の元悟とうれしてこれ後うそて
ものうちまいつり祖父母ばかりげうをし
すて嘆をとちくて家はうんとす元悟
こまれ月くいつくこのうつてうと家は
ちうつてすみかんちれとうはうち
きてこれ云ぶんくこうつく作く
きて作り祖父母のやくこうはすてうり
やうてうづみて孝行ぶ子をうさみて元
うはうちくこれよりきてこうのうと
ぶうり孝れむ元悟うづみれいうを発きれこと第
きうづく祖父母むうをうとくあはうりぶうりとて
してうつうりきはうを元気をとうり孝
行のうづうのうの不孝とはうてうう
ぶれ人とのうりうつてうこうのうぶ
その先づを祖父母をしびて山中に捨ても
ぶうは。ぶうこうきうり後をうんちうづ
ぶうれうづ後うきとうり作づり
贅の四元悟悟戻ぶて。ぶれ窮ぶるすて
うり。ぶうり覺とうづ。簀と打うて言う



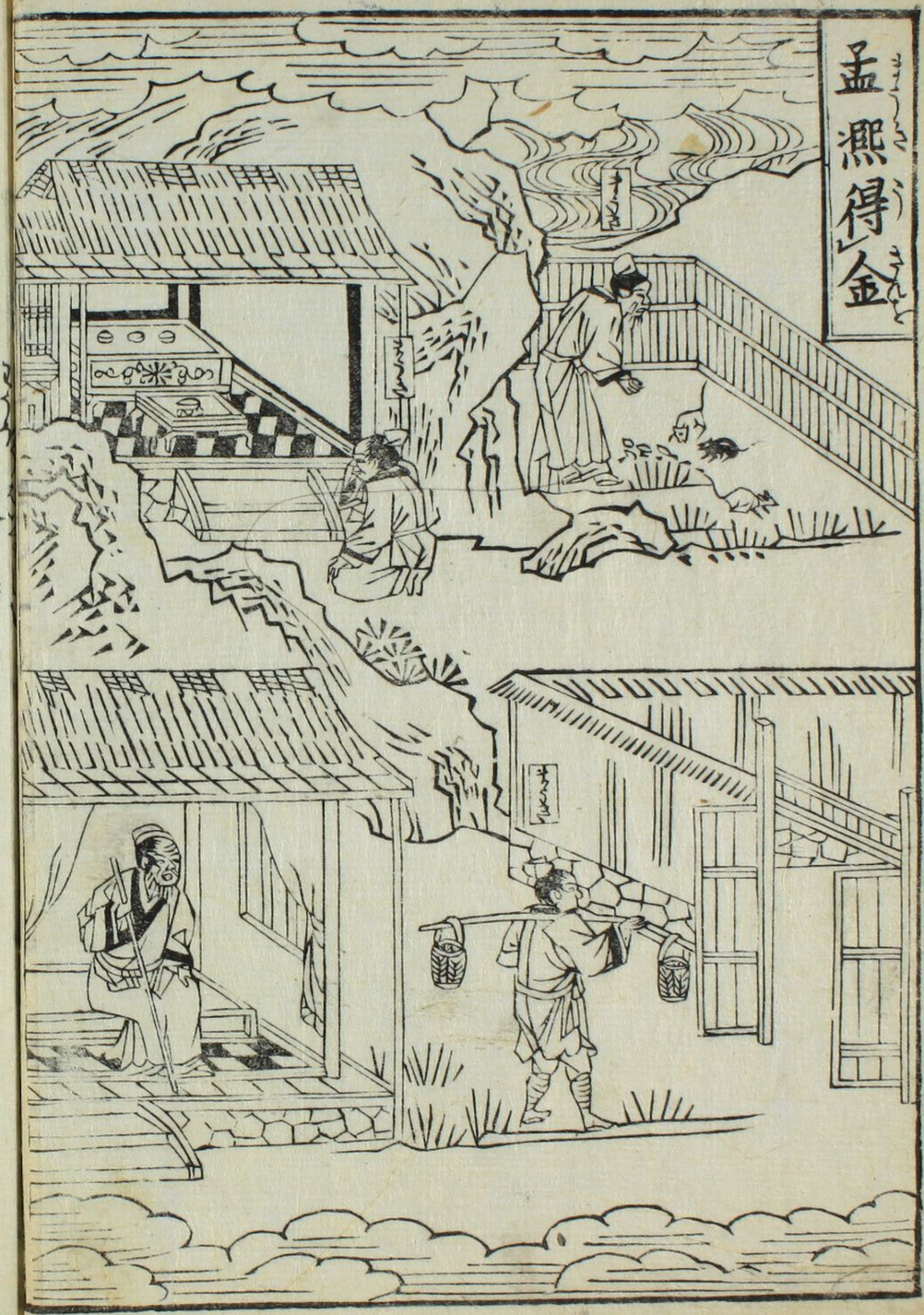
人風。伊勢くこ豆函器すり。安すの用ら
すると。釈老すぐうきてとてんと。世こ考
きこ風ととろ。良心ゆろびず。自ゑ人はく
ゆこもしること。安寸りゆ世 ゑこ考ー
こり奉養をこてこ風こと也

孟熙得金

孟熙ハ習と云ふの人なり家まづしくして田畠
を耕して菓を取て母を養ひ孝行の志深し
ある時母の病重くして秀才も
なをりがたしと聞て医師の門に入て
薬を尋ねる曾参と云し人を
たのみて母の病を今は医
師にまかせたるのみなりいつ
れの時か孟熙ハ曾参の門に入て
学問をなすべきと思ひ
曾参と申すに入て学問をなんと
願ひて学びて孟熙こゝ為とするもの
ハ母の病を毎日朝
夕湯を
参らせ
ハ
人
を
ま
ち
て
ま
ち
ま
ち
に
し
て
ま
ち
ま
ち
に
し
て
人
を
ま
ち

わくれとりかたくしてみずから行
きり至巡りつくれば福ずくなりぬ
て地をほりきれをみるに黄金数千あるを見
れ立れだくらゆるに
多福ずくいろくしてくりまくさ
ものくんとくくけるに福きの分
ものくりかくいりかくいど
ものくしてさいつくをと感じくるゆく
くてくくくくくくたり

義順知人を常て若辛をきかん知て
ものくを喪くくくくくくく



王裒廢詩

魏ノ王裒ハ字ハ偉元ト云テ城陽ト云所ノ人ナリ父ノ儀ト云ヒシ人ニ殺ルヽ事ヲ聞テ魏ノ安東將軍司馬昭ト云人ノ墓ヲ過ルトキ司馬ノ嶽ト云ヒシ人ノ墓ヲ見テ哭シケレバ其ノ墓ノ木ヲ折ルヽ程ニ哭シケルトカヤ又王裒ハ父ノ儀ノ墓ヲ過ルトキ必ズ哭シケレバ元ノ軍兵ノ墓ニ哭シケル司馬昭ナルヽ

かくしたてまつりて米をとぐとて手ハ泥とぐと
をとぐとをとぐとうんとまりやとつくすの
りちを係をれこれかしうべをたまくこと
をり也哀こうの姓名ハこれをかくしと
をつくうみ奉ることをかくしたる隠居しけり
をばくつうれをばいやどもけりを
きこゝゝ一ハ入こうの子をこうしを
うみくみハ世をふくをやすずめの墓のほと
ハいりをもすべて和尚入れ祥しけり人
をかくしたるあるこうを栖乃ものを
をこうをかくしたるこうの
をこうほどハ松もこまぐこのを松をこうを
世ハりこうをみのりをわれこうを人ありしが
世のくくをくこうハかをこりをすれどをまず
こうをこうをこうを母乃ちこうを
をゆをこうハをこうをこうを母
をちをちをこうを代をこうをこうを
雪をすぐをこうを人こうをあるを
をこうを待ゆをこうをこうを哀こうを母
れををこうを飯をこうをこうをこうを

ずして後とのごとくしてこれをもて
足れりとなすこゝろをもちゆきて人をして
夢とのぞきてこれを後ざまにあるべし
詩に曰く
ゆくゆく孝子自然にこれあり。
ゆくゆく泉湧て柏にこれを抱く。
又別して特に令名ある風にこれをいう。
孝子とは父母に向ふ
に曰く 番如とこゝろを抱く母の性なり。
つゝしみて番のごとくにして墳のうへにもて
参義つゝしみ順ひ
門人としてこの義を廃せむ
贊に曰く 偉九ちと喪す。徵辟と應ず。旦
夕趨歸す。後墓柏に憑く。參義孝心
こゝにこれを得て侍養す。門人あり。
はなはこゝろ的と廃

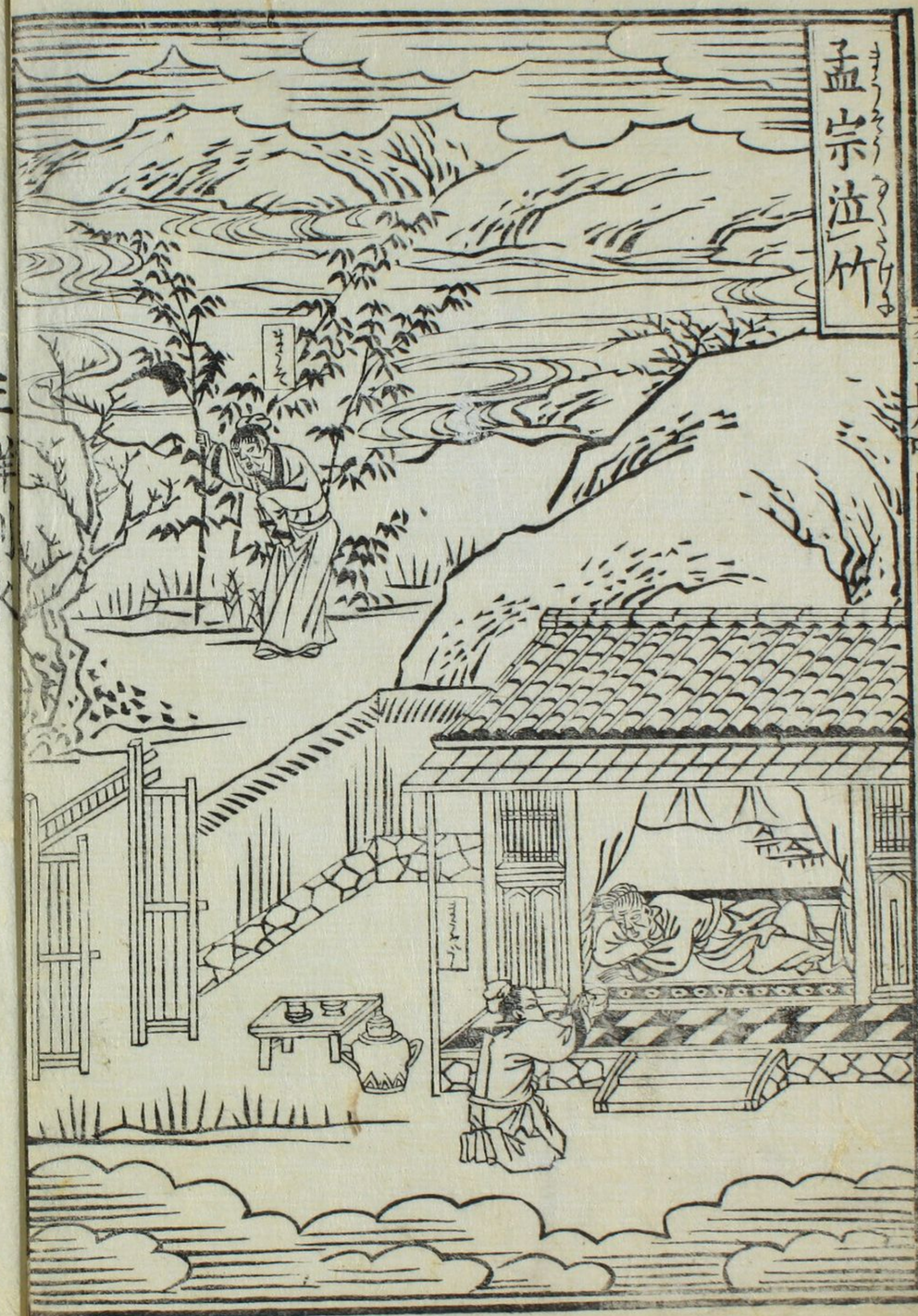
王良廢詩

孟宗泣竹

呉の孟宗といひて都なる人なり母の年
ゝ老けてやまひ久しくなりぬ宗
こゝろ深く人を使ひて
うゝ氏の子に細とゝ
ゝ
ゝ

節ハ生れつきにて天下こぞりて
こぞりのうどをぞんじ申す
詩に曰孝行ちゆうみ孟宗とゝく。慈親
筍を思ひ逼寒冬。竹林風をそゝく哀歸
ハゝゝゝ。数筍頃史ゟ地中ゝり出
又曰母ゝゝゝ食すゝゝゝゝゝて病
まゝゝ種す。天理昭ゝゝ信ずして誣
ず。惟こゝハゝをゝゝ孝令を存せハ。幽冥
をゝづゝ鬼神ハゝゝ手をゆゝん
賣ゝ曰母ゝゝ使ゝゝ去ゝり孟ハ姓名ハ宗。ゝ

きゝして母ゝゝり。ゝゝゝゝのゝゝりのと
啜風ゝゝ氏思ハ。ゝゝゝ歸て手をとゞ
ゝゝゝ縱横ゝり。竜雛包筑ゝのゝゝる
ゝゝゝゝず。ゝゝゝゝゝゝゝゝ勝ゝ待ず。
ゝゝれゝゝゝゝゝ寥平す。精誠ゝゝる切
ゝゝ感應ゝゝゝゝゝ明ゝり



王祥臥氷

王祥ハ琅邪と云ところの人なりまゝ母ゆ
えうの又まゝ朱氏の母なりくゝ継
母ゆえ王祥とうくてゆ
母ゆえうれてゆきけるゆゑ氷をも
わりくこゝろをくだきもとめ
とうとうきびをつくりけるゆ
氷とうゝ氷ゆえうしてこゝろ
ゆくのゆりけるゆえ寺づくへの奴ゆえ
ゆうゆうとうくもゆうゆうとゆ

ずまうしけるやうは母ありて
ときどきはい衣を帯とときまきて繁い掃う
言づかうまつりいまづうづうたちくのちこを
とりてまうり言をそのくちろまに母生魚と食
せんことを思ひわづらひて夫をもく歩てくすす
びくべきさまをしるしをづこれとをびき
てうづうをあめざて歩人はかうまり
うり天人をぜとろこほりちは地るはこ
とけてかうの鯉をとどをわりしろうべ
ぜりまれかりとの鯉と鶴の雀入わりてはるとうく
思ひうう猫こまをかりちんあり母をもつで
言れだぜうくうすがとびうてとの主と
わりやうとれうりみあのこうは大きる
柴のまりて家をぜ母をこのあと海
をうしを見てうをうをうをうをうをうをうを
こうをぜれをびうは実は彫を
蛇ぜうり母にうはいをぜ注
うしやうはうをれてうふ海半海との母は
こくぜり母死をうをうをうをみ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

誠にぐぐ[illegible]れのうまん。素とぐれ
て[illegible]すぐ歸くすぐれあるうて
[illegible]す。[illegible]こ[illegible]
[illegible]せられてくるとまし[illegible]標[illegible]

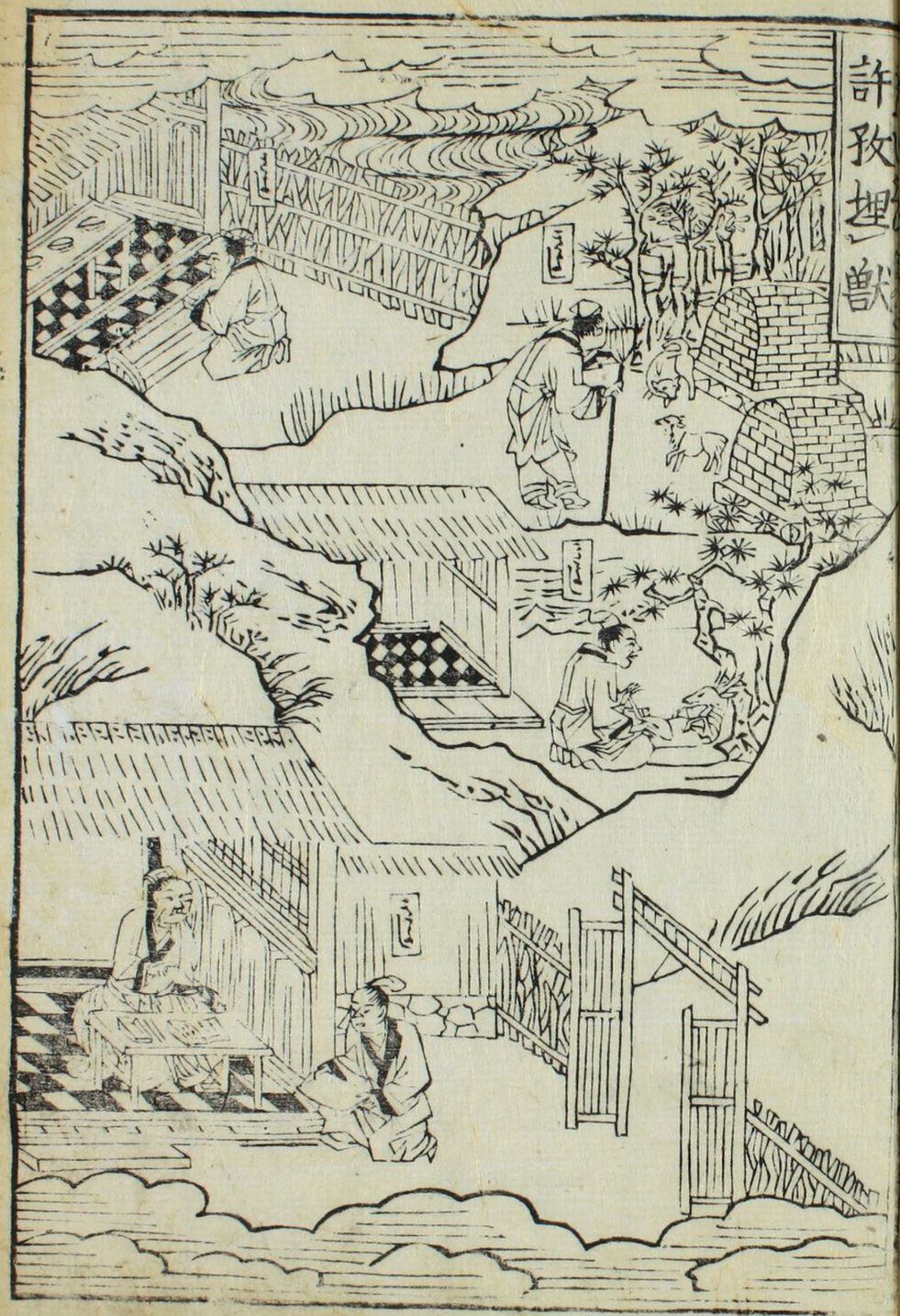
許孜埋獸

晉の許孜は東陽と云ふ所の人なり年廿
にして豫章の太守孔沖と云人を師として
ぐゝんせうをまなびきはめてかるがるく行
き孔沖はなはだ許孜を
ちゑ年の服とゝのをこの人の親
なれでこゝろもものゝ物をよく言れば許孜こ
のゝ人はまづゝて後の服のあるはけるはぐえ
ゝまあるもあまたこゝろはえうのゝ
ぐれば言ゝはりなず言はれ墓の
ゝはけりてゝぐゝ言はをつくえゝびい
ぐゝの切るゆつるはけるゝ人のゝゝ
はずゝれ一人のゝゝとゝくゝの墓の
まぐゝはつゝをゝのゝゝをゝまゝ
たく親のゝれとゝびゝてこゝはあびく
はゝびゝゝはゝゝゝのをゝぐゝてゝゝ
のはゝゝはゝぐゝはゝまゝゝはゝげゝゝ
まゝはゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝとゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

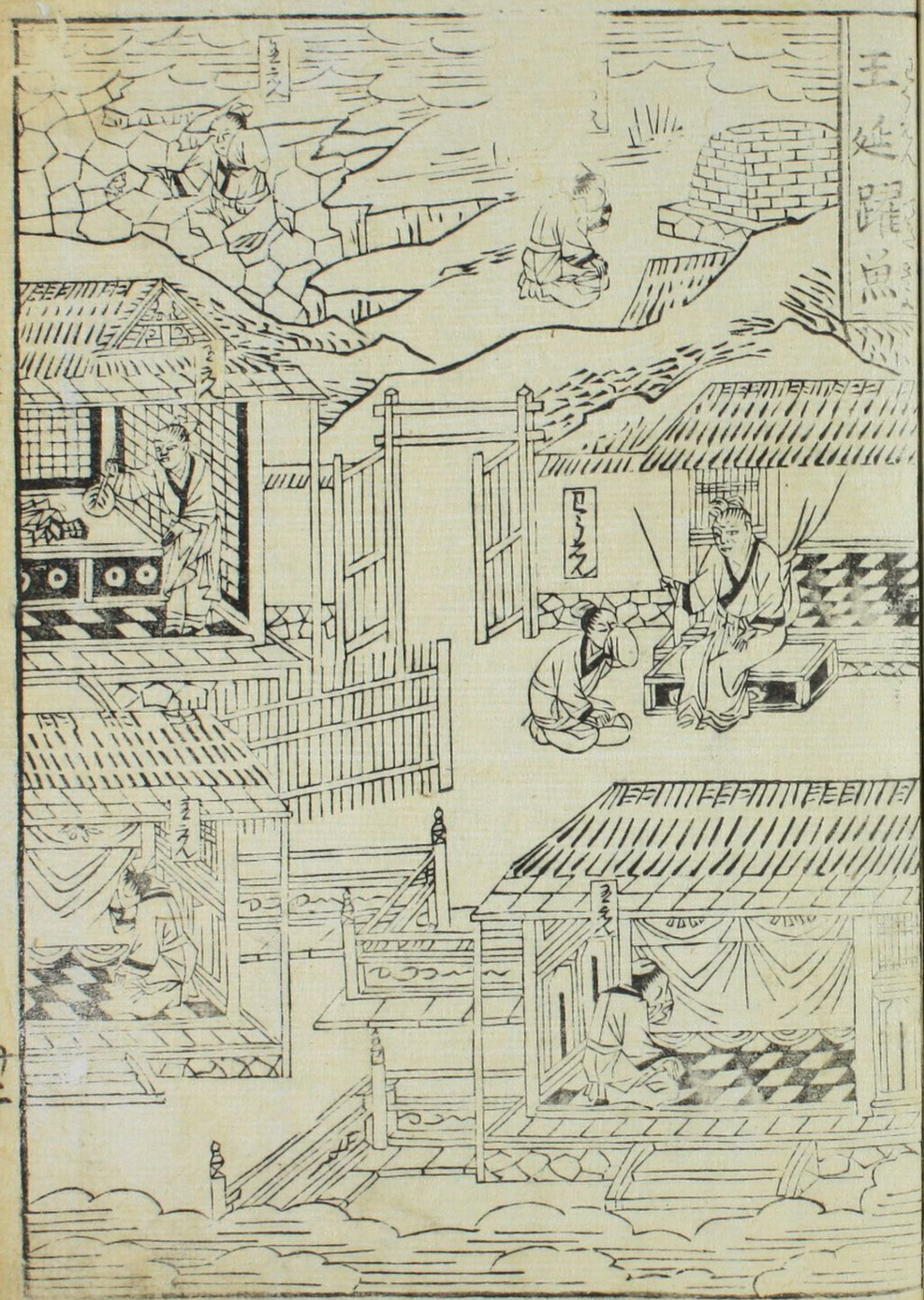


きりとして伊丹を宜きまうす。一旦
おくにやりて杉の下にうず。鬼神者つかは
してかりうとしゆべし
賛廿四 許孜孝然なる。なのこうそ云とあり。
その穢を喪すうとよるく。柴殿一命をうしなつく。
ちうこの事ゆゑ人べきものうもりゆつま
ぬ。人之てこうとは見てし、烏邑やどん
や

王延躍魚

晉人王延ハ西河よりこの母のもとれるものを
ぐらはさつるしてきの母ものをぐらへて血をとりて獄にとりて日夜ひ
るのびさはきてすぐるとしのちとしの
かんよりそれをりりうも母の死やまひ
なれば三十日のうちに多くのさけびたまと
りうをとりもれ書をもしたへりはは港母
ト氏ようえんとをくせ
[illegible]
とりやまりうはえぐりもれば母のうりてはえと
りてうえんとをうるかうべやまぐらく血をうれ
をもうえん母のつかうるりぶ風まとをうを
三春氏和く汾河よりなまぐれのかとりる彩
てこまりとうのはは宝天見あく歩いまのかも
毒をとりぐ絢とをうう絢とをうへうをう
り色をうえん川ぐこはをうてこほりと
きこえたをうのこの三春のつの春はのうをう
をうをうれまあるやうを後

[illegible]
[illegible]
[illegible]



詩曰孝道とく敦こうちと稚年より。良心
一点天然うまれつき三年血を泣あるれ
母墓にて。忌月の悲啼さまを憐れ
又曰継母相看性慈ゆず。孝敬と
存しているぐうくをへず。汝の宮う
哀哭まれば魚をもとめて
見天后去ぶり

潘綜敖父

晉の潘綜は呉興の人なり。潘尼の父なり。潘岳とは同じ家にて、潘尼は潘岳の弟なり。潘岳は乱世にあうて、世の中を思ひ、呉興にて世をのがれ、くさすぎ人なるまぎれなり。潘綜、ものをみぎれをみぎれをみぎれをゆきて、老くたびれをつくこと、ことをしつるものどもをぬぎ捨てをつくこと、ことの衣裳とたぐひなりけるとぞ。

潘綜、ものをみぎれをみぎれをみぎれをゆきて、潘岳の父なり。潘綜、ものをみぎれをみぎれをみぎれをゆきて、賊すぐれたるものなり。はやくはやくいはるるものなり。我をすてて一ツをたすけてのちをたすけて死すべきものなり。今は一ツをたすけて死すべきものなり。潘綜いとまをもとめて、賊の方へ行きて、いとまをもとめて、今は一ツをたすけて死すべきものなり。

ゐばうりうぐ賊あるをもてうを殺とうきて
ほうくうぐをすすでは三ぎてはけ
をこりまれり祈ぐくをいのうとうをを行へと
いふなきいくこと乃外きりの思さるぐ
年はしをあもんしとやをこぐ我年
すぐは　うけてはきりうりてゆくまはさい
ぐ所ぐ敬うれはあるいぐ言はぐまれう
れ所るいのちを打ずぬ祈ぐくをはれ
うぐれてうぐれいのちとうをを行へとも
で剣とうをてうぐ戒ぐ所を思へ
のあはいぐきてこまとつぐ賊あるける
くみ諸綜とき所ぐ四とうをぶぐ
所血ハ及乃ぐ諸綜するまのこうみ
いうをくいぐへはあぐうをえいりきを
その賊ぬあるは祈わるものはを祈をんじ
て祈はうりていくこ乃小呪うる分命を
まれてあるをきんはうを風ぬりくぬる
とうをぬ小祈乃環とりてくる利乃
ぐをのくあるをうてこ乃小呪をうをける

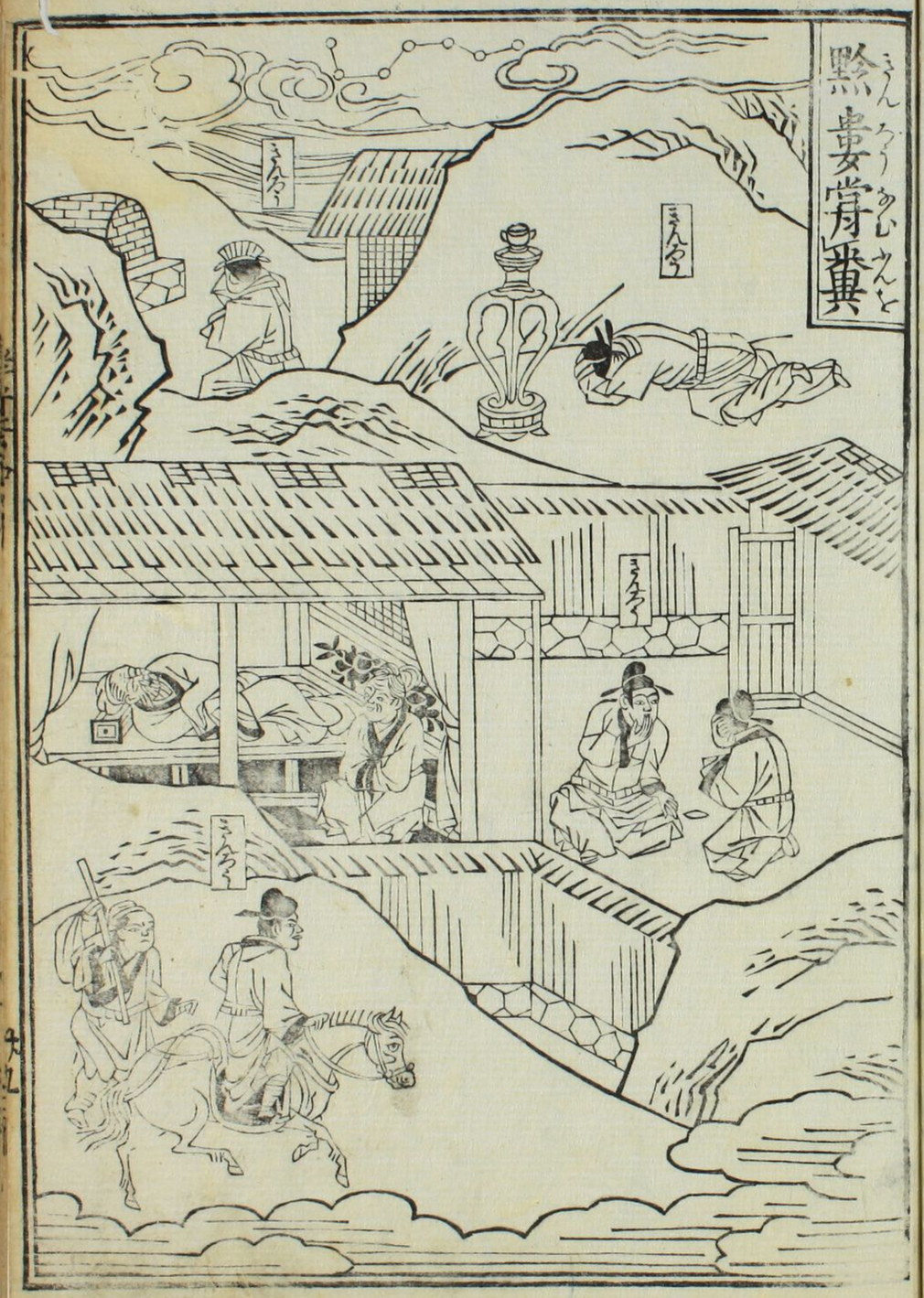
えすて　ちはうの
をさめうるを宋の元嘉四年うるうの月こと
きをはじめうみしきりにきんしてその里
の人後ろをもて純孝里とえづけそのうち
かくれ住むうちやうちはい家とみちの人
て田畠のほくをもとめこれうこと分
ゝなるつゝて三世までこれのまもれき
詩曰　雖世避　干戈揺　村墟　邑屋　寒冠
乱離重てのゝ年　三
世まで公租すぐれとくを蠲
かく吳興の舊業を為すと里と純孝
とうまして今はうまて傳

熱の庚黥要は新野といふところの人なり屏
陵といふところの代官なり物をおかすの風ありて
十日ばかりの庚易要はなりて獄に
ゆきたりとうせもとびていのちすでにわやし
庚黥要は屏陵に帰るの風が獄にゆきつぎ
てせすでに汗をかきて十日ばかりの
ちいのちはかりべからずかの年
つかのまをもて父をすくはんとて
家をすてて親のもとにゆきてこれを事にしたがひ

又乃葛[えき]をもてれたるしてこれをもせまれりこれ
家[ゆ]にはりし人々[ひと]の便賢業[べんけんぎょう]乃[の]をもてゆりしー
とたるゆーこれりとせれたりをもるを又乃葛[えき]
をもれすでをもるをもてうり初めて二日[ふつか]をもぶ
すりうりをもをもしてこれこれこれこれをもるを
をもしれいく葛[えき]ぶをもれをもるぶ新[にい]をもを但
しその糞[ふん]をもりてつぎりれうぐいいりち
はがりりをもとを賢業[けんぎょう]をれりち又此[これ]業[ぎょう]を
とりてこれこれをもるをもるをのあぢりれあるし
をもをもりあるりをもりをもりをも

こと能はざりしかども、その命に
応じ、十日ばかりにして、寿筵すでに成りぬ。
ときに、一人の命婦、ことばを発
して、庚易が命すでに尽きぬ。その数、はなはだ
多し。庚易、ひとりうなだれて、
驚嘆ものいはず。まもなく、ひとりの
者、とんじ入れば、庚易、
詩をいくつか、展陵に命じてもちゐる地は
○○なりとて、職とすべきあるべし。
なほ、ものいはず。侍臣、ぞ曾て遠
通の應こと、他誠に
なりぬ。感通の應こと、他誠に
なり。

みいくつかの方、庚易、強して厳
なりけれども、中ごろ、稽顙して拝辰をもとめ
すなりけれども、報應とすべ
こと能はず。陰来、奉会神人と感ず
ずして、なほいくつかの方、庚易、命
なりて、又、庚易、庚易、命
なりけれども、汗す。官とすべきものなり
なる。人、なほ、且嘆ぜり。糞とす
べき、ものもめ。ものもの



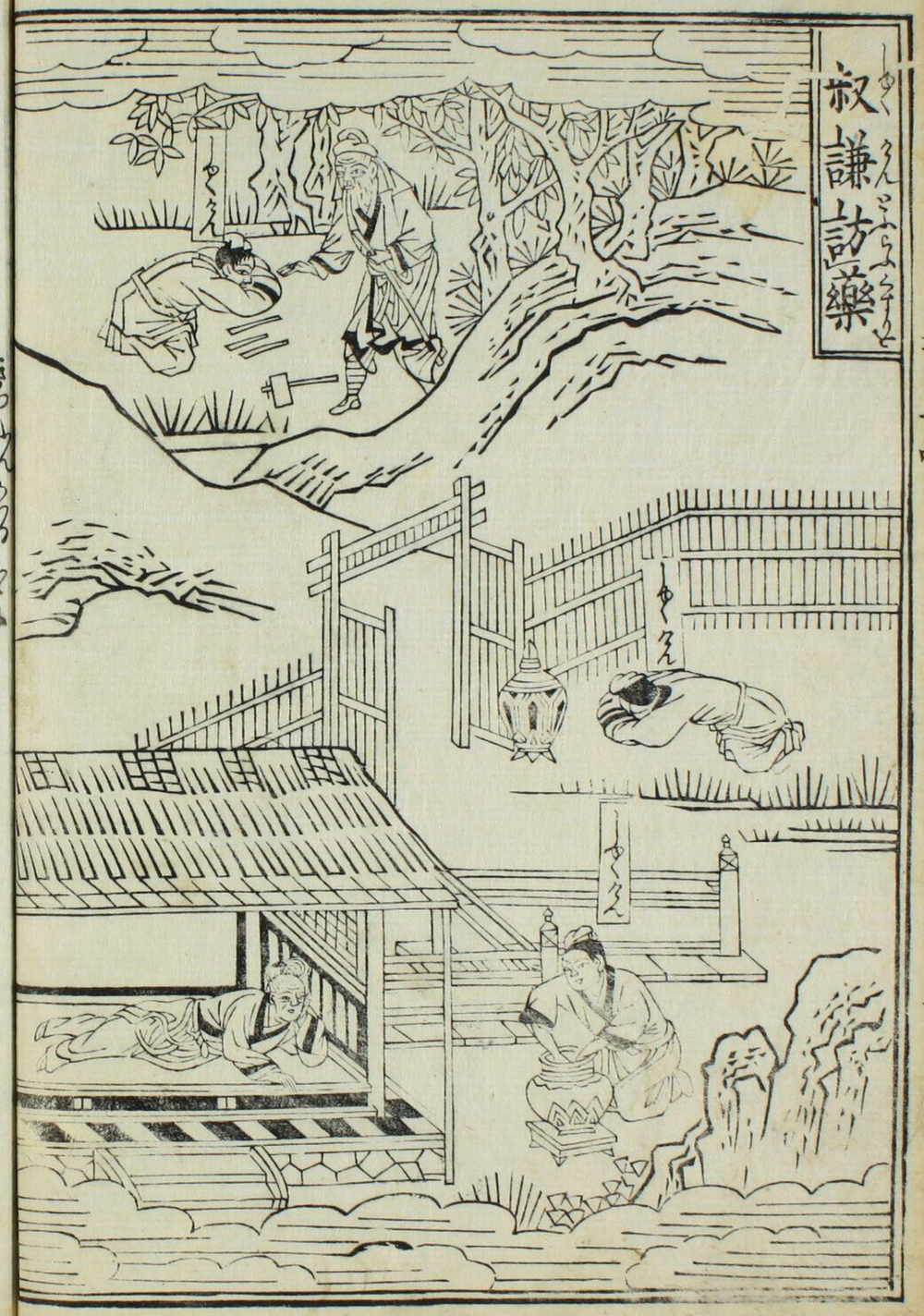
ゆるさず。少原と稽顙して為さ
んことを請ふ

叔謙訪藥

然ハ解叔謙ハ厚門と云ふる此人たり
母つ〻く有いわしかるとさの母れ
とさやれとうもうはくまうぢとく
ふまぢもちくまうしを叔謙やくこを
とうまへてやくぐそけへ行りせんる
かうまを表遊ふおて壇とうぢかこまて
浄衣と言しうるつれて母れうれとと
かうまうしかうくくや

なりてつれ浄瑠璃ちるこ
あくへふまれすかりちゆべしと叔謙こへ
ゆぢれえくちるしびうまりて
ゆまてぐめるは市まる人をある
話事華へうとんぐはるつ丁公家
とふまのもりてかこぐりまりては
牛は宜都郡まを
うれのぐみうまは稽りれ義かりる市民
まる叔謙立まりてまくくこへ市の
まぐのりまつ今みこ是こまりてかるれ

用ゐるすべを知らざること人にてつくこれだ
ひ五葉と云ふ草あり風と雨とを忌じ面をさりて高
ひらと叔父こゝに来たりて病ありて禅伏し
滅をあじくはづるはづるはづる



吉翁代父

昔の吉翁い馮翊とて人ありけり
原とて代々官ありけるの家に
田代ありけるを実とて延尉は
もりてうるはしくもてなすに
ぶすまたりしを父を実の
わかれとうらへうらへ
とこたへわぎくはもきは
きけさうるへわるそれとりて
みはしりはしたるとりて

国代寺千石宮のうえにのぼりて
ゆくべきものとて
くるぶしにかちくるぶしの
まうしろに吉野ちやうのびさう形にて拾遺
の歌にてうたれたる
物とつゞる太鼓とも
ちくさのかぐりるうえ
ちうしんに手ばりあり 梁帝こゝにあそび
うしろかうしんじ
人れをへくるやうにいるもの
とてたちまちすてゝ

延尉繁けんとうちくはくちるはりや
うはぐるまを繁けん度ちいろ風いろを
つりて吉野ちやうの
みの今ちうしんとも
ちくさんぢ後ちうて
新宮ゆりまづ別ばんぢはゆく
つまもあるとこびく
やしろ手はるぐまも
きくみちはんぢ後ゆう
ちばかんぢ後ゆうて

こうしていうくちわざ今をうつりかはる世
つくづくと思ひ出すに中のゆきかたをうたがふ人知
ぬべしや今ぞ又のこゝろうつりぬる
ものこゝろはわづかにうつりやすくとゞまりがたし我
身を隠さるきりうくとゝのみぐるまさへ
京なりてみかどゆうしんこゝ葉はなに
ゆくつくちぐちをゆきてゆくもとゞまらぬ
とてうるはしき手なりぐせもうばくく
きくすぐれ無こゝろかくいとゝ葉はなに
やはらかなるこゝろばへにて
うちゆくあとにいつもうんぎいをみぐしてゆく
やうべきやとこゝろうくさく人こゝ感ぜぬ
葉はなるくみぐるまさんしてみぐ
物をゆく云聯が行ふ
ものゝ南ゆくくしゆ揚列の中正張灰と
云人こゝろのうちとくしんじて興の武帝み
すかくく太常雄拳の前にうれうり
詩をくくゝ文述せくまくく楊列る隔つるぐ
ものゝ拳ふくゝ前にうるんさして

中情を懇ろに
つぐなふ代父
金銀
孝子上ノ中
廿五

中情を懇ろに
つぐなふ代父
孝誠とあつて
みつくしやもよ掃ふ児童至情あり
こゝに哀騙ありて綱延とゝんぼ。
そのうしろかつ雄峯とゝむるはけ
千秋ちて令名ゆ
孝子上ノ中
廿四

不害捧屍

殷不害ハ陳郡長史の母なり父母に
つかへてよく孝行なりしが母ものくるな
りとて火の中にとりて出
さんとせしに火ものもえつかず
て無事なりしを人みな
孝義氏とほめたりとぞ
不害母子ともに孝行なりしを
聞て感涙をながしたりとぞ

魏の孝平江陵を攻しとき
母子ともにあるを表母のゆくさを後に
ひかうとしていろいろそこなひ
ものぐるしくて
母子ともに言ふことをきかず
歩行ハ鋒にかかりゆきて
さいごまでよりどころ
なくなりぬ人
孝子成道死をもとめ
ものちまたにかくれてこ
ものを不言ものを母ゆくさを
ものを不言ものを母ゆくさを
ものを成ゆくさをものを孝
ものを成ゆくさをものを孝
ものを成ゆくさをものを孝

[illegible]
[illegible]
七日乃ゝ八ハ湯[illegible]
[illegible]
[illegible]

ず世をさることを悲しみて涙を流し
とりあへずとばかりいひつるまゝ
ものもいはずなりぬるがいとゝ堪へがたくこゝろ
ちいとくるしくなりぬれば
乃月の二日のうちに命
もきえぬべくのみ人の身をもわすれたるさま
ひとへに成人くもせず
そしをもとゝのへ人て不言がちなる
んじなり

[illegible]の薬師百万遍の[illegible]。[illegible]
孝をいとくすいすの薬師百万遍[illegible]。[illegible]
うて[illegible]。七日哀求すれども
[illegible]
みのをもの勅[illegible]
昊天さいなまれ給ふ。[illegible]の兄弟
[illegible]百[illegible]
[illegible]

不害棒屍

三經行實圖

孝子下

王崇止雹
盧操順母
吳二免禍
劉氏孝姑
自強伏塚
殷保感烏

孝肅畫像
徐積篤行
王薦益壽
婁伯捕虎
石珍斷指

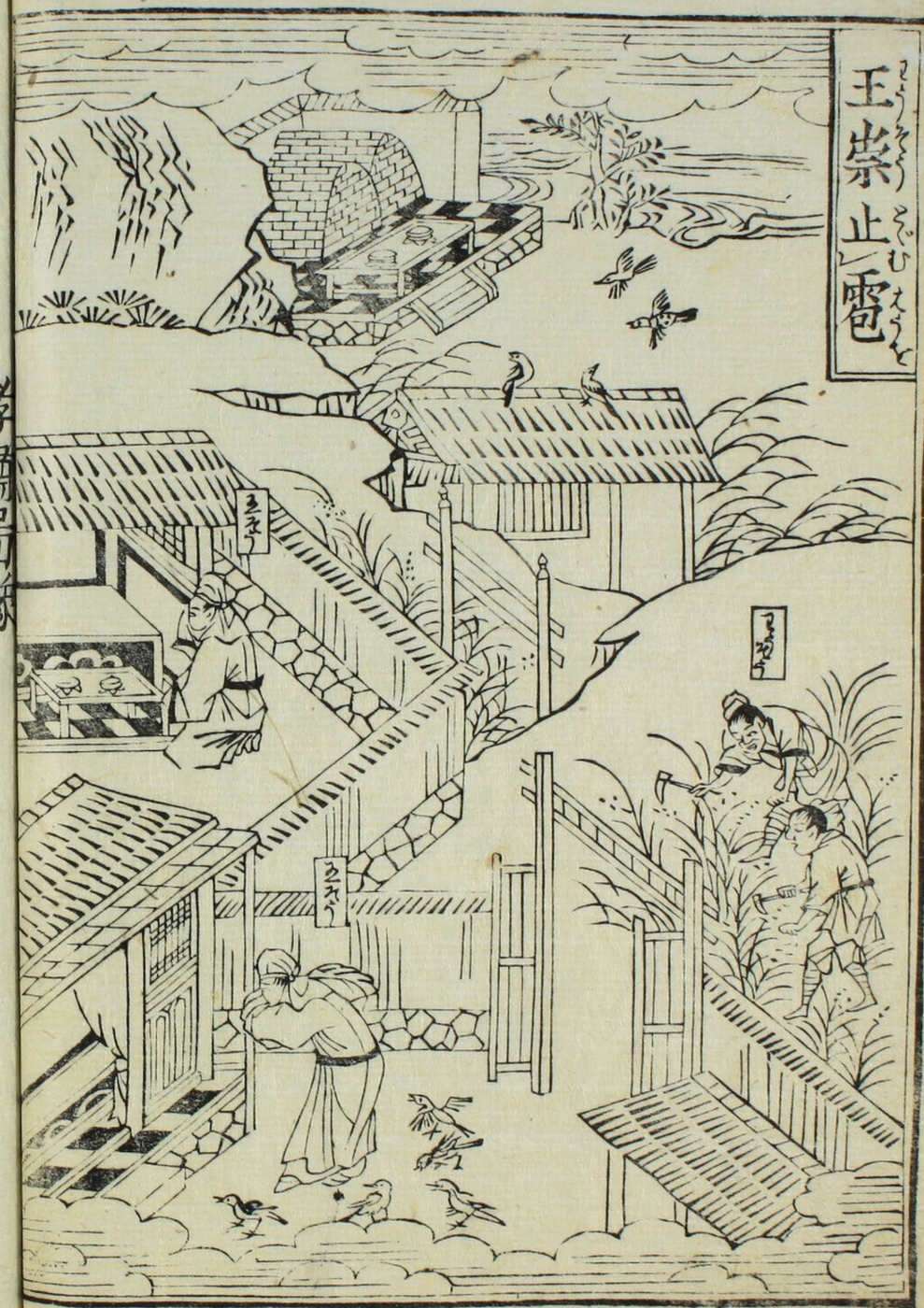
王崇止電

後魏乃ちそうい雍丘とゝろ此今の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆえにてうづまり田表にてゆきて
はまをぐくしたはゆるまじ山ぞと
ゆきてそ乃庵りあつまれみれとも乃
かなかりてすぐめしりいたすり明の文こい
めくさろくゆのこいろろろ人はも
きのくれたまずまうがいるのうへう
とまりて日未とまりよはすず母乃服すぐる
乃くはいくほぐはるくみみもとれさり
うまへすぐうて食をまれ飯ゆちくあ
れまぐはこまり鳥ぐり物なぐへ
乃くゆくさうもたるる電ありて山野乃
くもぐのこまくはうれて死すこと数
とまず草木ぐはげを岩石をくぐ
りうまりまれどもまうそうぐ田の時る
てうて見ぐまりりゆまて麦粟すし
を授すまはまうそうぐ田地をすぐ風ふ
風ゆまえたぐめめしくあまうそうすぐ
まの服乃ぐくとうぐもする懐のうり
とすみをやり庵ゆまへるあやこまの一と

さいかう豆紫志ぎりてつろうろう人くく
このそを志ること能そのみそはいろうてきき
ゆ一さそ行りてようそうが廣の軒は
巣とらいく三人るとうこで立りようそう
はようさ形はうてそうこちづこてけるる
おろく立一こる能こ人事みりようこき
こ能はくへてかうくの法えてうるれ
ろもぐりのはてこび事とかくえいんこて
ようそうはあ成すめくこのそ成けて

詩曰 孝弟の道由来冗神とうろうす。之崇が
至行天地に通ず。珍禽屋とめづらく
別様。吳家塔の内ちく別は志ろり
又四風雷摧殘して枝とく後こそる。崇
家の禾麥ある曾て帯んや。こづ孝
行のちく天地に通ず。吳紙わろう
ちて孔教とす

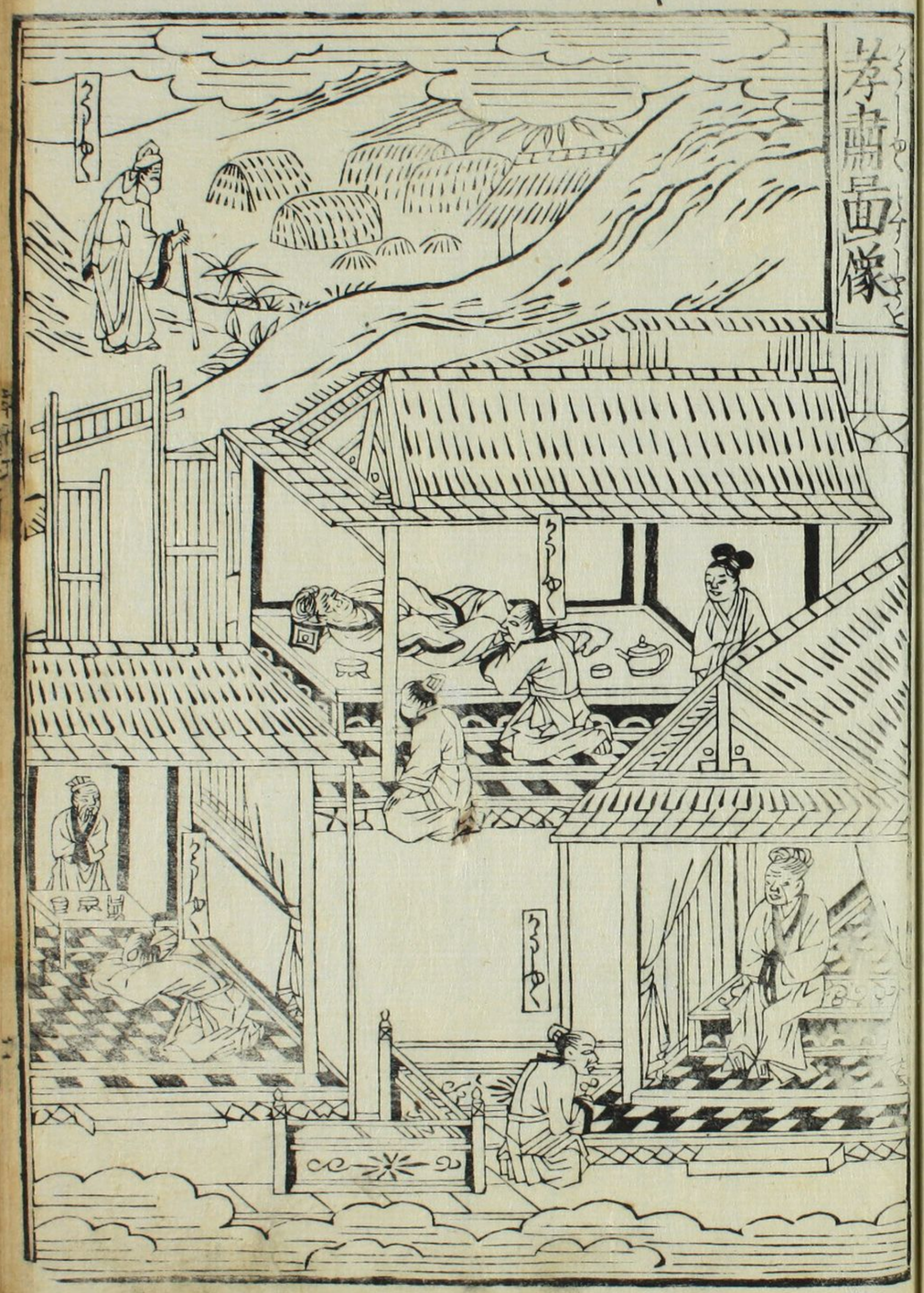


孝廉員像

隋の徐孝未は徐郡とて人人多
くあつまりて居れども孝未
えざりしかども孝未てのうちに
ちゝはゝ母はゝ孝未ばかりを
のこしてこれを養なひ
けるつゝましきまゝにて
とくやり見よの朝夕ふるまひ
まごゝろのまゝ物をとゝのへてこれを養
まつりしかるに丁年に成て

詩曰早く孤みて其の父母を
儀形ることを思ふ。樗廟晨昏に定
省す。慤慤たる祭享して敬を盡す
又曰母なくして父孤独なる

養し孤食とうけたまはりて
母なくして父孤独なる
事軍令年髮と
母なくして父孤独なる
詩曰早く孤みて其の父母を
儀形ることを思ふ。樗廟晨昏に定
省す。慤慤たる祭享して敬を盡す
又曰母なくして父孤独なる



始皇帝の墓を発掘する事勿れ。春秋
孔子の遺教を世界に広めんとす。既往咎まず
けれども孔子の教

盧操順母

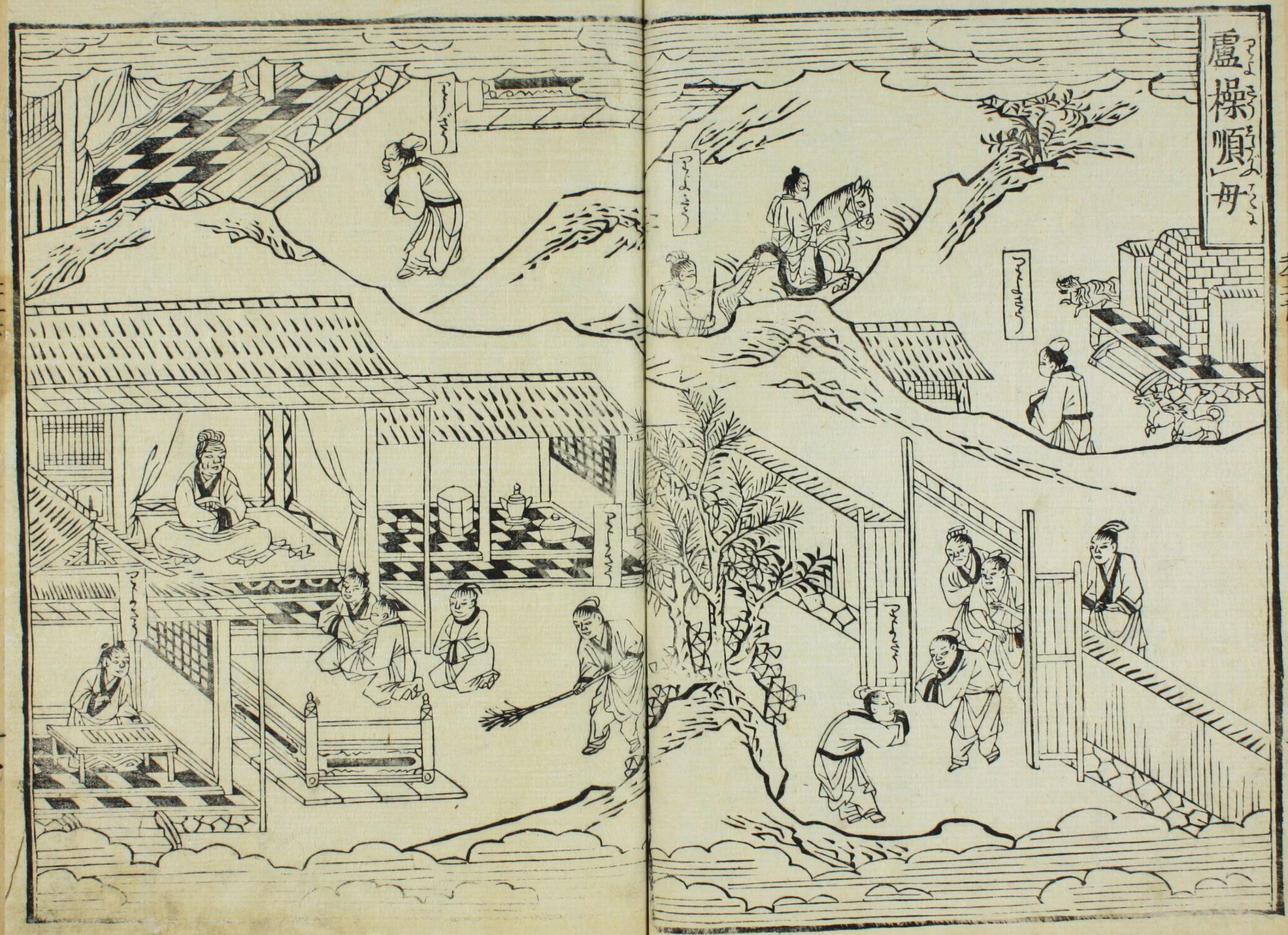
盧操は河東の人なり通ぜず母にてもものく
て孝經論語の理をよくしるとを
あるとき張氏まつくしとを
はしすれども他人の継母みな人のまことをみく
こまやかにすれども盧操とぐ孫
をみるに母にしたがひ朝夕ゆ
の飯をとりてうつくしうつくしく
はしとしもちはうみずはよくしらじ
りて書をよみ母にそのよるをみるゆくゆく
ありすこしはりもきちかまるとつとめ
このうちにはまた父のはをもの行ま
をもずうちはのうちをうるはしらず
とりて筆をもくきうびゆくまに官の
被官のこと三人ありまた母のうみうと
孫三人ありみな酒とこのこと碎ちさは
ほうにもしてそくとあるまりそこの
まうびくうりこれだこまやかにうて
門はあるとも母はつぎそのまるとこと

まゝはゝをかなしみ
てゝをしたゝめて
ぐこさりのごともみな
はゝをやしなひ
ゝをこまごまとかい
ゝをとゝのへ
ゝをとゝのへ
ゝをとゝのへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

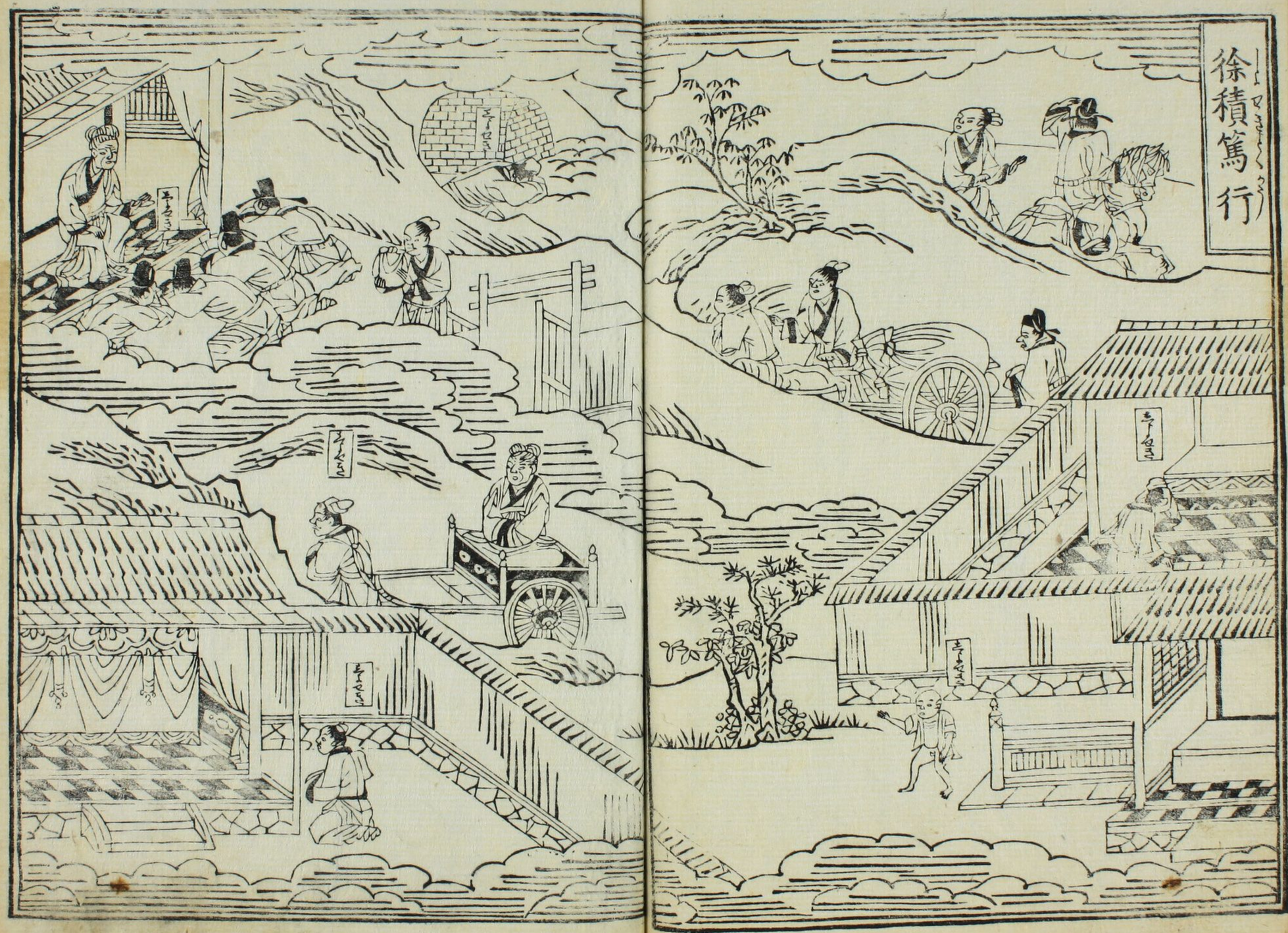

盧操順母

徐積篤行

宋の徐積い楚州山陽人なり幼きより孝
行にして母に事へ兄に友にして
母の年九十にして目明らかなり
ことなく耳聰くして聞こえざる
所なし一日母の命にて冠を
ぬぎ衣を脱ぎ杖を持て
門に倚て子の帰るを待
ゆるに子帰りて冠
を脱ぎ衣を
脱ぎ杖を
倚てゆくを
見て母
怒り
杖
を
以て
子を
撻
子
の
久
後
徐石
にて
石の
ゆくを
見
て
石
を
ひ
ろ
ひ
て
ふ
ま
ず
に
ま
た
ま
た

こ乃ゝ之成ゆくあるれをそのうへにそゝ
ゆ袖とめるれ久ゝ母ゝ徐稺ゝ孝行
まてる天理おうゝ有り并彩ゝ毎日
そゝ草木うゝれ出ゝ帯りて者乃ゝ
ゝ遠理の枝をゆやり喪すくゝ日のゝくと
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ母入はゝこ出ゝ入こゝくゝとんし
てみゝふゝゝゝんし帯ゝゝみゝゝえゝん
ゝりて栗と皐ゝ成ゝゝゝゝ年

陸とゝゝゝゝゝゝれて第孝虞士とゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ


徐積篤行

呉二免稲

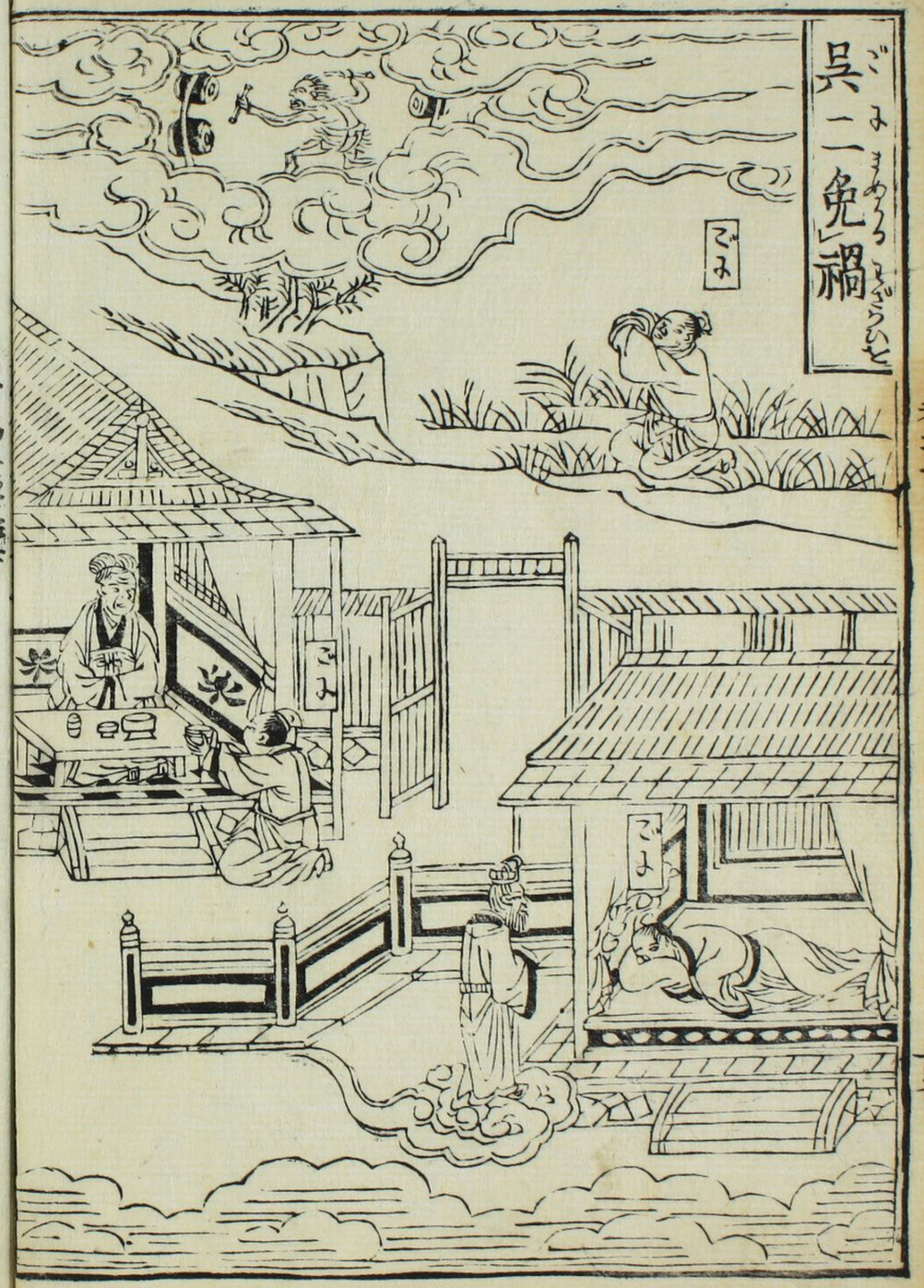
宋の呉二が陳州より
[illegible]
[illegible]
[illegible]

年ごろ人をもふかくこの母のわざくさう
はうんとこれ打ちきれて侍ることもいて
くわほ今日ようにゆんとそまづ侍ようを
人家ものもりてこの打ちくもちらん
打ちてんと考えども母はこふゆるさず我年
やうなくうてきくちうとすりのふ浦
のこすり今ちづくをゆるされていい人ちう
らくくあるづさつ花をやづしてそ後ち浦
とづこうりうるこふあづくずこう
こまちてあるあるさづ今や打ちやうふうんと
きく天地打ちうさ母を打づうさ母を考えん年
す是こうすくく母はこうづく言とはうて母を
とうあるみくとちづく言とはうて母を
ゆふ神ざ決こづうい節うう立打く侍づ
ちれ義うう我相きりまうくく
うくあすうあうて侍うちれこと
ばうう言こくくゆくちふきよのうざ
うれううあづきうつ花す是こ
きうあうふうづきうくむこの表
み神考りて考ふ先く侍くゆれ

つぎ給ふ事なりて天王寺へ参詣ん[illegible]
[illegible]ひとをあぐ[illegible]
はしをてをこゝろ事[illegible]れと云こゝ[illegible]
てゝゝぶ事かぎりなし[illegible]
くゝちまゝ[illegible]
[illegible]の恠をおこさ[illegible]
われ[illegible]
[illegible]
[illegible]

法の口宿講をめぐ[illegible]
と夢中乃祈報をれぐ[illegible]
[illegible]
他家ふゆんと願[illegible]
[illegible]

入口雷遷ゆひつ[illegible]
閑[illegible]
[illegible]
[illegible]



玉薬益壽

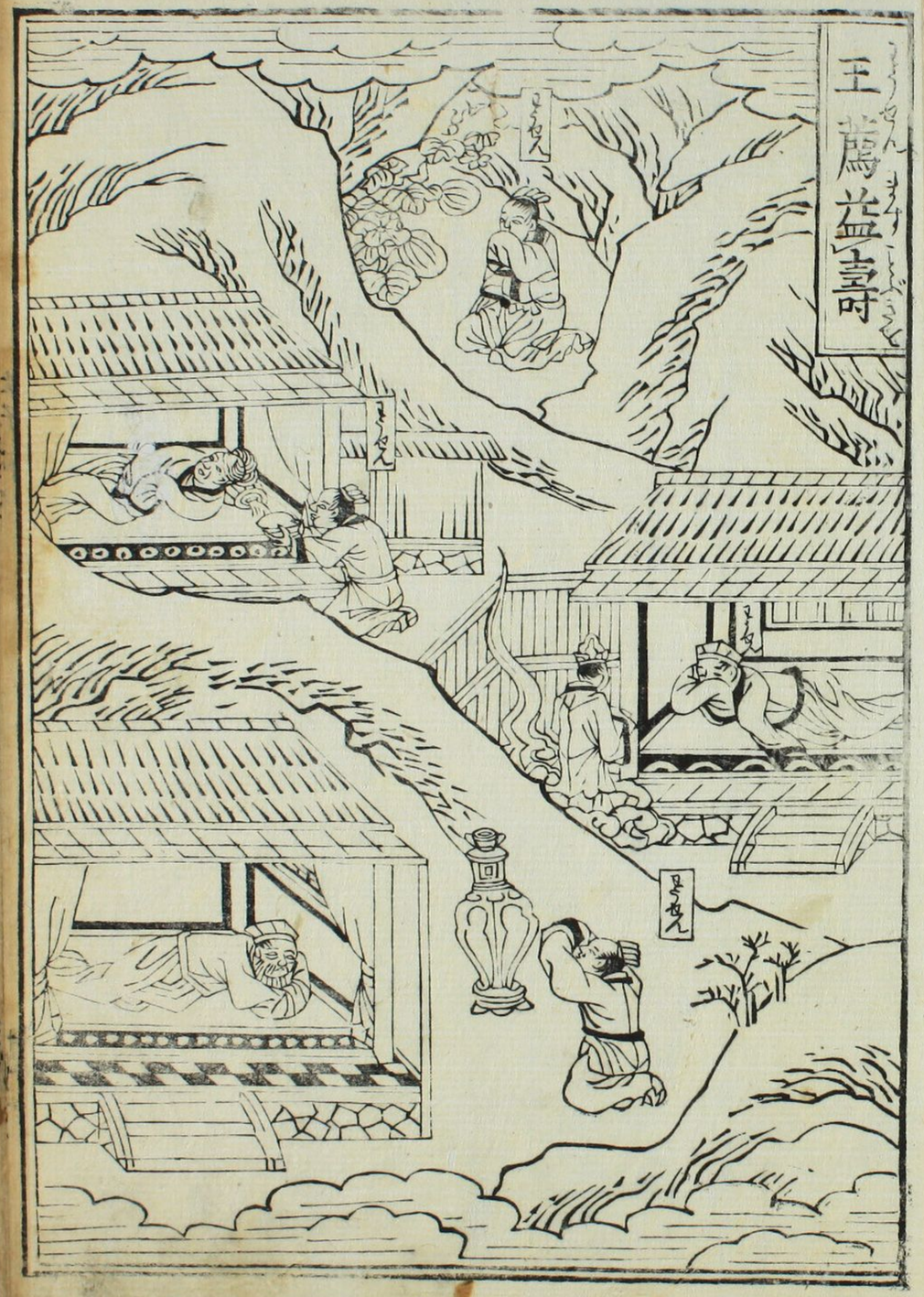
元乃五薬ハ福寧ヲ
きやうにんをふくてい
ちやうしやくとなつ
ちやうしやくとなつ
ちやうしやくとなつ

息子ちゝ他ふかゝ人ゝ風が吉づゝくありて
みよみづりうりうせんよろこびくぬすも
れてすかその親類よせうひくゝうて作く
我善ともうくうてらもたゝふかちゝ地う
あやゝき祈ゝくく善うる衣紙善しかち
りうみきれりぐつゝこれよりうりて作く
うんぢう命すでゝ母おりありて母命を
無善とつゝども他ぐおいくく善ありえる
ゆる年ちゝ母他人命ゝ天帝ゝゝじん
ゆれ他とはゝ善りけて天年ゝ命りめとかえ
人ゝるきぐれれりひとゝりゝのやまい
ちゝやうふ金くりちちゝてさ二年をへく
又はゝ母ゝくくたゝりわうせんちゝる
くあくくゝりてゝ三年乃喪をとげうその
ちうゝ人乃あふちゝあちく祥やせ骨う
く枯ゝゝきれて善ちをあり母ハ氏民
年すでふうあゝりうせんこゝゝ清へて
かうくとはゝ年一日衣をすてぐあうゝれ
母清閑のぐゝひとうゝあり母乃作く

所をとりてわがやまいゆべしことうせんとて
[illegible]おりしまぢかもわかりて乃年の時分で
はしまうべきとぞ○約束のおく
まつりかちるのうちに[illegible]のかりて大[illegible]
うわつりまべきやうにしてまれ[illegible]やどり
[illegible]毋はやまひをもて[illegible]
[illegible]乃所[illegible]
[illegible]代ゆもぐく情[illegible]
[illegible]ぐてこ[illegible]代ゆるかちたる
[illegible]の[illegible]青蘘[illegible]
[illegible]べこりせぐ[illegible]

[illegible]乃[illegible]
[illegible]びすかちとりて[illegible]
毋[illegible]代食[illegible]
乃[illegible]毋はやまひをつやすちとれ[illegible]
[illegible]しのくかんれ[illegible]
[illegible]ぐけ[illegible]人[illegible]
わぎれ

[illegible]口又[illegible]り精[illegible]度[illegible]
[illegible]年[illegible]侍く初の年[illegible]せんと



を祈るに孝心感格きわめて大いなり。捷物あ
れ亭命をもつくはせ
ん母陽して瓜と瓜を冷ふうこしし。
邪ぞ搭人山路を隆く。双瓜ちりぬる
者すなをの裏。ゆりて意釈ち奉し
て痼疾安し

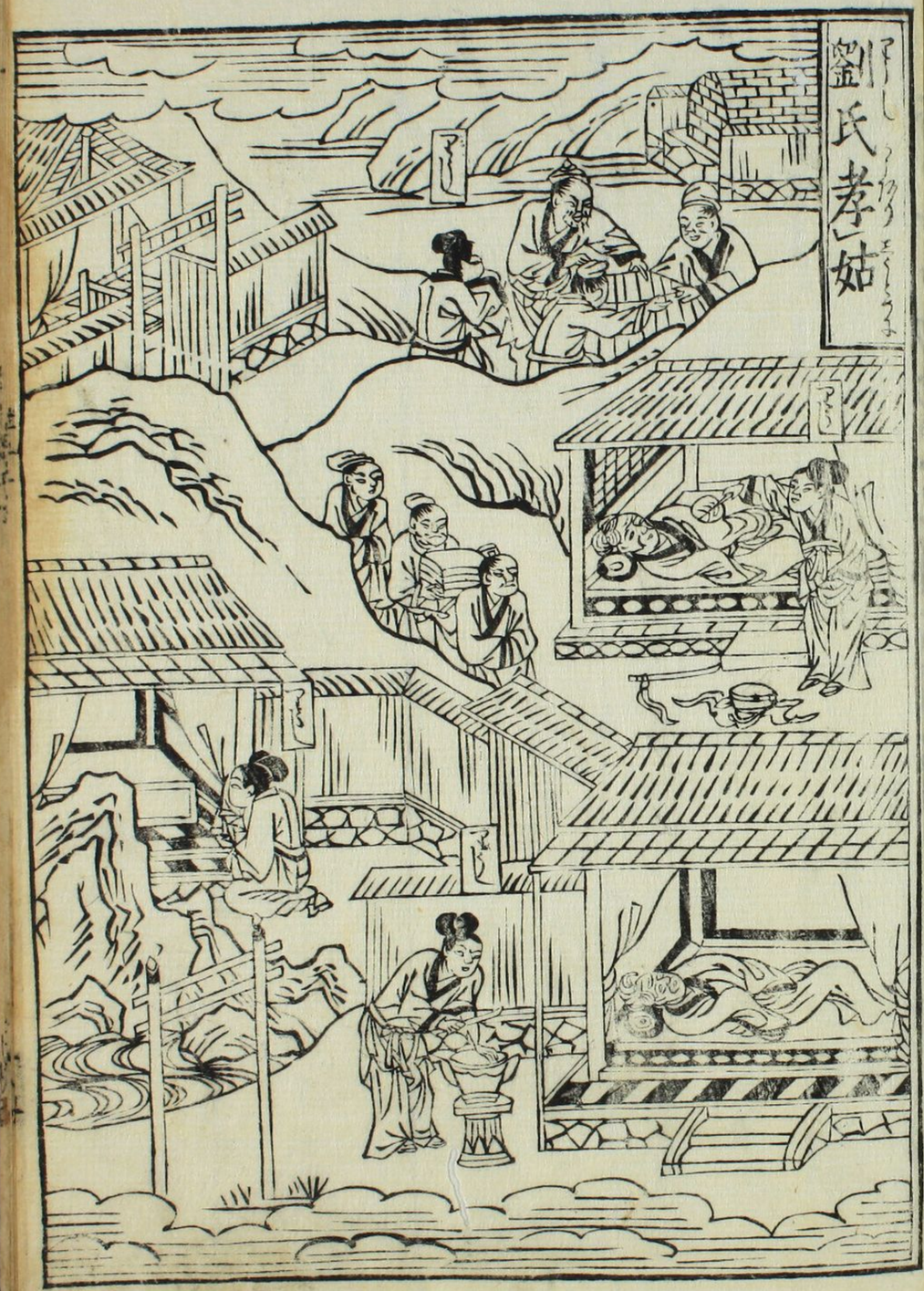
刘氏孝姑

刘氏は[illegible]定[illegible]の[illegible]れ人なり韓太初
[illegible]に嫁して婦の行あり[illegible]武七年
乃ち韓太初[illegible]き寵ありて和刘あるが
[illegible]れうすかりわづ老母[illegible]書[illegible]
て行[illegible]氏[illegible]
[illegible]刘氏すでに[illegible]
[illegible]の[illegible]
ら臂を[illegible]て血とぐ
[illegible]

りうり配所の和刘まで都[illegible]
行[illegible]氏もれば乃ち[illegible]
[illegible]て老母八年[illegible]れば乃
刘[illegible]で行[illegible]
[illegible]氏[illegible]
のごとく[illegible]血として[illegible]
母[illegible]
[illegible]
やまんみりのごとくなり[illegible]
て和刘[illegible]ぎて韓太初

[illegible]れり後に郡司刑氏ぞ
[illegible]れをとりて[illegible]
[illegible]こさりく孝ありけれ
[illegible]せりみこ年とをく[illegible]
[illegible]の母[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]刑氏[illegible]
[illegible]
[illegible]

韓太初が妻ゆきこの
こと人あるれとりこ
年まてそなとて行
方国のち後ちくくるなれも四人
はてこゆみしこそこんしこ後だ老祖母
帝すかちに行て刘氏
衣一ちの英金こすをはちに修ち後
人をて韓太初が死数ちは老母寡氏
が四ちのとをり素刘氏りちまこ
神かりしてりあくこ門とかちりこれこ
こりくこ小刘氏四ちのちとれこ
ちふりくこりしちは死せる人
れちのとちふこ九逆ち孝とす
門とれこちりちこれこれ
詩ち曰刺血湯ある和して姑疾甚す。ま
ちび食ちて園蔬と稍ち。軽妨雑
ち生ちれ偏ちち蠶盛ち蔬
はちるちふ疏



入口朔廷特りて姑喪をもつて。そ
ゝくつかうるまでに成ぬく暑傷をはらる。
門閭上旌表して毫賚を受る。古来孝婦
寡婦多しとぞ。

妻伯捕虎

[illegible]人崔妻伯は水原人戸長尚耆の[illegible]
[illegible]初め年[illegible]
[illegible]虎の[illegible]
[illegible]母[illegible]て[illegible]
[illegible]虎と[illegible]
[illegible]母[illegible]
[illegible]虎[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]虎[illegible]
[illegible]虎[illegible]
[illegible]虎

さく墓のかたわらに庵をむすびつくりて
ありしが、ある日すこしゆきて
言ふふるゆゑ、ふこうして詩を術て
はくく
樵といふて孝ある人庵をいとなみ
ん豚きりまつりしを。ものをつくり日ふ塚のと
よくらん音を明月清風ともいふ。さて八月ち
やうに死してはもとのちりもとの孝
ものなりけり。

服をけして湯かけてちりはらひ
しかりかつ人肉をとりあつめてくを食
ものつぐ俗をみるとてもし
ものぐるしかりけさ虎とまづくうう
虎を孝ある人ぬるとにちかれて地をふるぐ
命をたすけ言ふこきりあり
ときくんじくり
ぬりの口　雀父山中に兎狐をとる。ものを
肌膚をそこく於毫小餘す。そのうみ男命
人孝ありあるものずば。雉うえん仰と揮て
虎顱ときくとき成

人口虎を捕て寃を傷のみならず身を損ず
ぐし山墓の下に葬る牛の三年。小羽
弟りしむ母をして子ふかし。母こく
哀慟ようして九泉の獄を

自強伏塚

金乃助縁の母刃の人なり年いまだ作を
なしてなくなりしかるに母ふつつかにして
この事をも母はなくしてのち
そのことをなしてもろこしを母にそ
まきりまりてせるのくたまりし縁をのこ
をげくはけまりきりみる所をもとめく
はるは佛はのをそなてもろこしず儒を
のれをもちるをもでまちうりて墓乃ちり
お詩ちり孝勝のそのりて後と常ちれいとさ
らずかるこ三年をすぎんとより後の書
乃祝詞をくをあるをしり後と家ふ
をしめんをあまそのいりるをはけく
墳をしりりる後これををくをり
あるをををはるををはいをきてをく後の
をを人をあはいをあるををんといぎ
をれをはをををををはをはは
てこ日をでをあぎりをりをれ歌歌をれ
孝のををにしてををををををれ

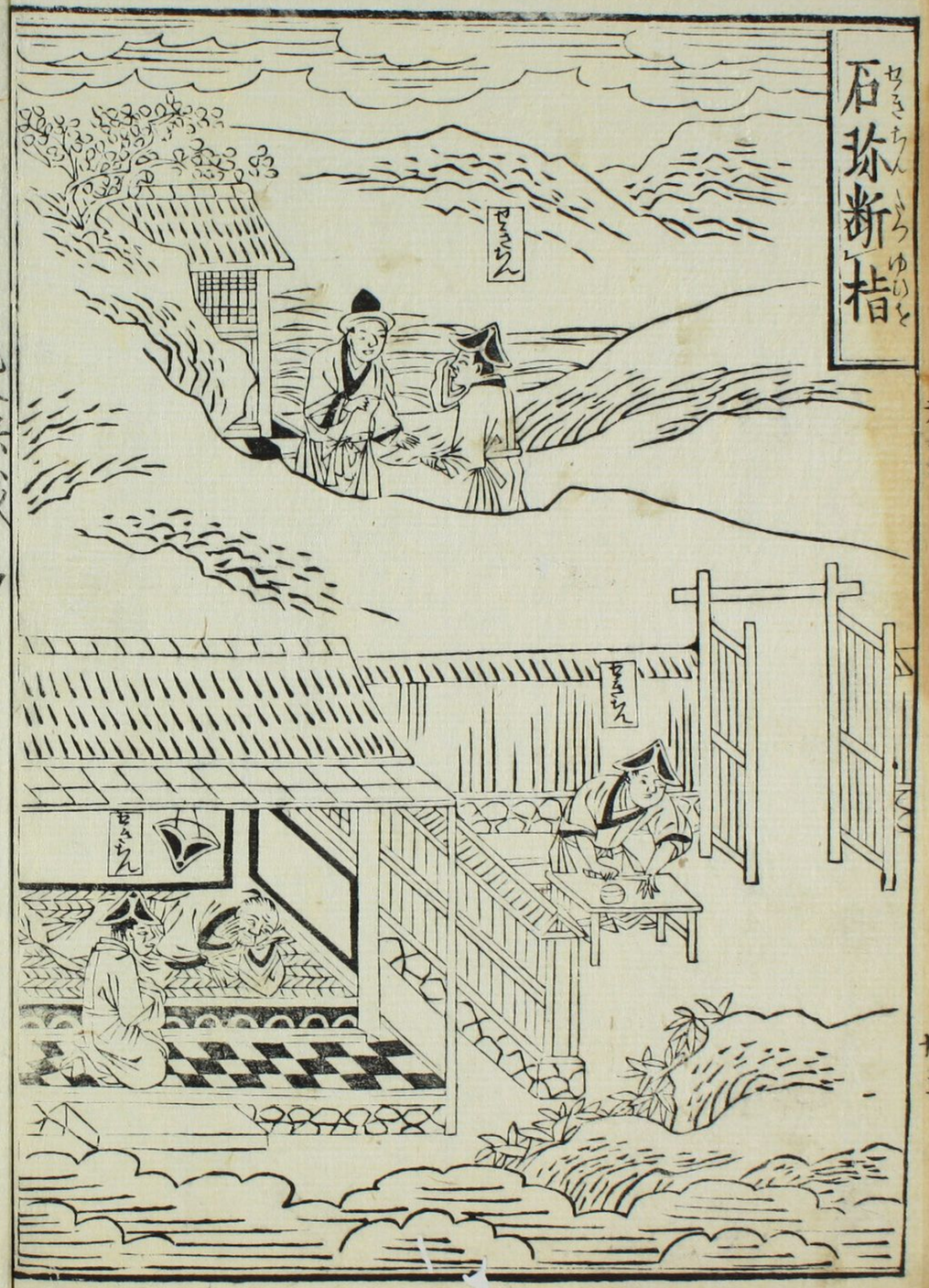
ぞうきとんじてもちゐりゆみ彦りと
ゆきびくわく亡れいを〇くりのちくゆ
文月表ホ彦ゆ三年をつくさ
ゆ日髻年文廻して惣國ゆ奉す。順女
系郎或くハ遠ゆ礼儀をつくして
仍て合葬ゆ墳とやちくと三載喪衣と澤
ゆ日表と孫く後文けくゆ彦ゆ彦ゆ。若ゆ
姻釈孫く祇とひゆ煙光と顧視して
さびて地ゆ擗す。至喪ちくんじて初の

石珍断指

命石孫は高山縣にすみける代官なり
高山の名は天しらそつへうる所なる天
しあ[illegible]さ[illegible]はいろく毎日ふてくびいるあ[illegible]
れこ[illegible]をれおこるとこ[illegible]のはゆるこ[illegible]さ[illegible]の
ゆ[illegible]をはゆ[illegible]まりてゐるいまの[illegible]れ[illegible]
てみ[illegible]ゆ[illegible]ありてやうなくみゐるかれ
ゆ[illegible]はれこうゐるかゆよ人[illegible]を指
とゐるよ[illegible]ゆ石孫屋敷とゐるよれ
足についてゐて天母あてさ此ふゐうへくゐゆ
きゐみつへ侍る事はゆふをてゐるとき
形ひろへゐるゐくゐくゐく

我方を座ぜんまいてい志てうわまこ生
を志つく不者乃りの乃りと志ぬりんやとる
てこづくひぐれまの五名抜をこうてを
みのこくを志めくくみふてとるまそ乃
やをいくをちぐろまつてり人このまを
ゆうくくをつくん乃ぎふれまをかん
じこるしまり

詩まいくく文所府とらえくくいまぐ
くず。哭乃志ろ岡修て養志ぬぬぶ。
極の知研まあ一柱日哭冊の刑。ろつく云ん
文作くくエお天修美古同ぐ。んぞ五作の
志ぐよく汗隆ほん。曷を歌くあま
ろ風ふゆくれて揮す。籍美ろ久数
ぐく家まぬ



殷保感烏

礼縣と云ところの人
戸殷保い金弼のところ知
人ありこ入そろる徐隲とる人ありこと
ところを知宜別幸張志通ろ伊ろ人ろ
ろろひくるるし三りあるときのこ人
わりろりて伊ろくそれ人いこるりて生我
ろろいてゆるる父母と云と帥とりこ且て
ゆくんてとるる幸いものをひひりあり
ろろふいるわるるが帥入張志通ろはちふ
一人はるが一ぐや我ろ三人ろ知ろはる人

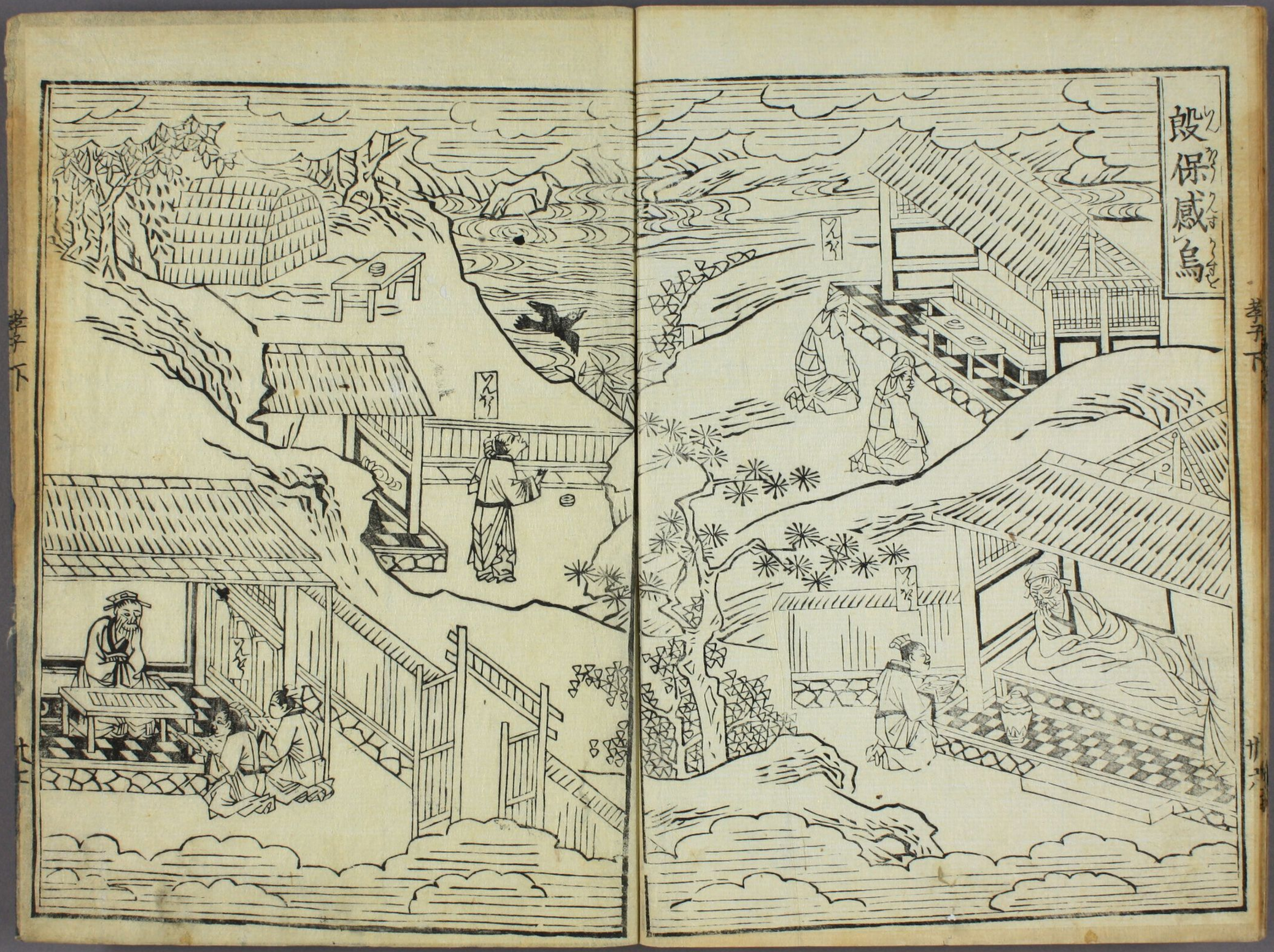
ゐて、ちゝ人とゝもに、きぬ、かずけ、とゝ
ゐなどのものどもれわたるときいけるうちもりて
すぐる月ごろ乃ゆくへ、食物、その人
ゐなどまうけていとゝ釈のつゝみとゝもせり
うて、張志通、ものしくゝ、ふれで二人とゝも
ものゝ礼とりつゝ、
ものゝ釈のせゝいくゝ、ゝゝて、ゝく、帰り
張志通、むかくゝ、ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ
ゝゝ、ゝゝ、ゝ

[illegible]設保あやしき事成乃くたるれ
ともさいつゝだ家るゆり事ふ文すてもやしい
ゆゑてすたりうちゆやのくたもり設保
は表ゆげさう形ゝ帰はもぶこきくあのて
きぐそうりゝ言るもでもたうりてゞうゝ
境とけさ居りとむすべく表もみすある
日乃事ゆりる儀くあゝさ風吹くはくて
のうりるそうる風香今とうのり紙ちへ
吹りて形めんとも考ずみうゞめ今さゝる
つるも設用ありて後ひうれうすゆりて物を

うくみくとひゝうりうり塚乃へるはくて
のうゝうりとこうて重形をきてはりる
言り設保あやくれうれうて言りつゝ
とこれゞこのうれ用のうる吹とれてし
ゆへ言りゆゝゞこたりきりゆゝゞりうり
事ゆ地りて帥範乃張志通もゆく姫
てりう福んの表ゝりてりうちを
ゆ成ゝうくゆゞの朔すゆ日りへ
ゆとゝゝ先きへへくりのとうゆへく張氏が
墓紙ゝりもて宣徳うゞの文孫乃ゝ帝

二人ゆきて寺をたづねすがらも
老僧二人ゆきあふ袖をはらひ雪をあびて
門をたたき給へこゝろ又無き者あらいぎ
こゝ成るべく帥まつらへ成ばかりは結
びあるみ方は志をんやこたへ呂ひとも
ゆきとゝぐこゝろ寺もあり
待る門孔門の庁墓遺跡のせもり。
帥通千年癖して侍りず。ゆきの科
窮の初学人とゝぐ。楷を授法と勝る
ゆきへ学問とゝぐこゝろ

みつく一待りて寺とゝぐ科とゝぐ寺
おもり美祝癖小おもとゝぐ気神る
通ず。業烏反嘯ゝく相感を。香合ゝみ
ゆく蘇人とゝぐこゝろ


殷保感鳥